



mochirisunose.

もちがせに新たな風を！
～もちりすプロジェクト～

Small Core 活動最終報告書

令和4年度2月4日作成
もちりすプロジェクト代表
與倉千花（地域学部地域創造コース三年）

1. 活動成果

1) 『コミュニティスペース もちりす』の開設

①家の改修

かつて地域住民の持ち家であった空き家を「拠点」「場所」として使用できる状態にするため下記の改修作業を行った。

・トタンと幅板取り付けによる屋根と壁面の補修

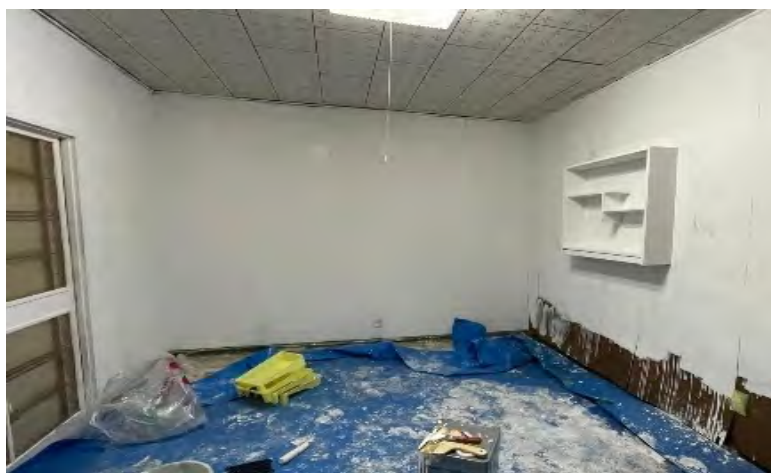
活動を手伝ってくださる地域住民の方から、「そこ直さないと一階の壁も腐る一方」とのご助言をいただいたため、2階の屋根部分と土壁に幅板、トタンを貼り付けた。1階の補修を完成させるためにも早急な処置が必要と考え、作業に取り掛かった。屋根も壁面も、元あった木材と土壁が腐敗して崩れ落ち、雨漏りと隙間風、動物の侵入を許していたので、特に腐敗が酷い部分の長さを測り、一旦板を取ってから、新しい幅板や縁材を取り付けた。そして、その上からトタンを貼り付け、穴を塞いだ。普段使わないような工具を用いての作業となったため、緊張感を持ちつつ取り組むことができた。釘を打つ作業が多くなったが、みんなで場所を分担し、進捗を実感しながら楽しく進めることができた点も良かったと思う。ご指導くださった地域住民の方からも、「素人技にしては綺麗にできている」とお褒めいただくことができた。



②コミュニティスペースとして世代を問わず寛げる『もちりす』ならではの空間づくりを目的に、下記の内装整備を行った。

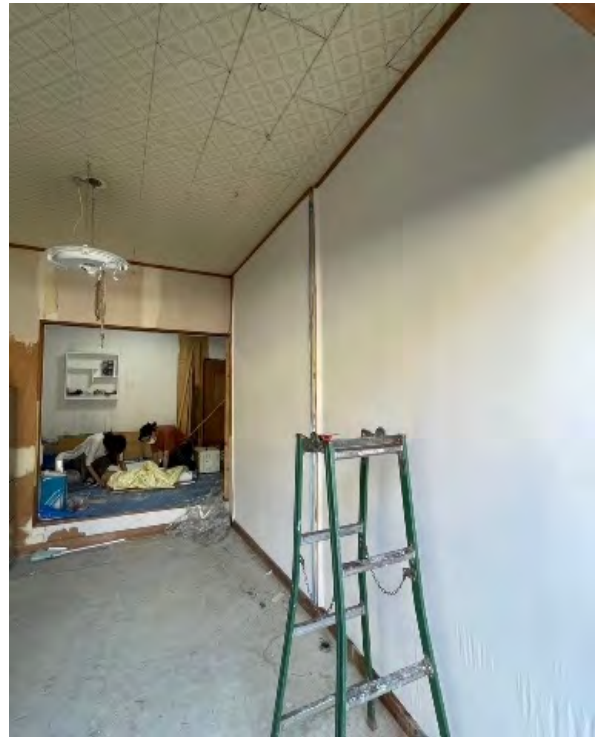
・白色ペンキ塗布

親しみのある空間づくりのために、1階奥に位置する和室の壁に白いペンキを塗った。前述した通り、屋根の雨漏りによって壁側の木材が腐食している部分もあったため、その老朽化した木材部分は板を一度剥がして新しいベニヤ板に貼り替え、その上から白ペンキを塗った。また、この作業では私たちの活動に興味を持った鳥取大学の学生2名に、ボランティアとして参加していただいた。腐食が進行していた壁側の板はかなり薄く、また切りにくい素材であったため、綺麗に貼り替えられるよう取り扱うのに苦労した。しかし、ノコギリやはさみ等を駆使し、無事貼り終えることができた。自分たちで創意工夫して作業ができたことは大きな進歩だと感じた。



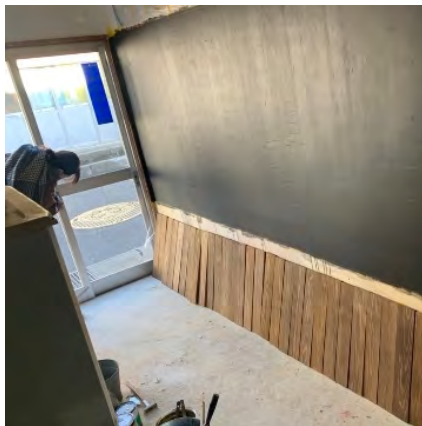
・ 壁紙の貼り付け

コミュニティスペースとして家を利用する際に最も使用することとなる玄関側の部屋の壁紙が汚れ、剥がれ落ちていたため、4面すべての壁紙の貼り替えを行った。本来貼られていた壁紙をはがした後、壁の凹凸を平らにして、新たな壁紙を張った。道路に面した部屋の作業ということもあり、作業中に用瀬住民の方々から声をかけていただくことも多く、アドバイスや励ましの声を頂けたことがモチベーションの向上にもつながった。特に、この作業に取り組むようになってから、以前よりお手伝いいただいている方の紹介で塗装店を営む別の住民の方からもプロの視点での的確なアドバイスをいただけるようになった点が大きな進歩となった。屋根や壁の改修に引き続き、壁紙を貼る作業もメンバー全員が初体験であったため、はじめは緊張感が大きかったが、適切なお指導とお助言と、新しい作業へのワクワク感で楽しんで進めることができた。完全に職人同様の腕というわけにはいかず、少しヨレてしまう箇所もあったが、住民の方からもお褒めいただけて、自分たちの出来に満足できた。



・ 黒板塗料の塗布、板の設置

来訪者が自由にチョークで文字を書けるよう黒板塗料を壁全体に塗り、大きな黒板を制作した。また、枠組みと黒板下の壁面に使用する木材は自分たちでカットし、ニス塗布してヴィンテージ風に仕上げる作業を行った。黒板塗料／ニスは共に乾燥と日にちをあけての2度塗りが必要であったため、数日に分けて少しずつ進めていった。ローラーを用いて塗料を塗る際も、看板塗装店を営む住民の方に多くご助言をいただき、均等に、そして綺麗に塗るコツを教えていただいた。真っ白だった壁面にどんどん色が着いていく様子から、作業の進捗を実感しながら取り組めた点が楽しかったと感じている。



芝生、クッションの設置

②で整備してきた部屋に掃除機をかけてから、人工芝とクッションを設置した。左添付の写真にはまだないが、本棚を製作しそれも設置を行う予定である。

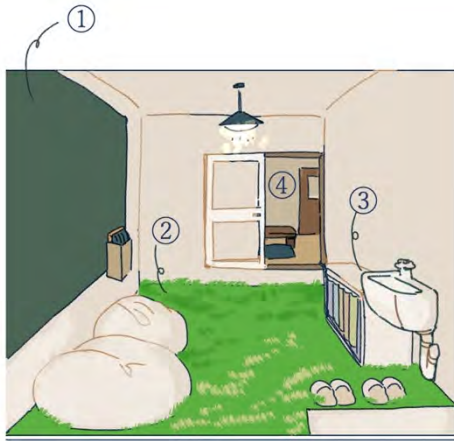
○成果まとめ

- ・屋根と外壁、内壁の修復を完了した。
 - ・内壁を白く塗布した。
 - ・壁紙を貼り替えた。
 - ・黒板の設置と枠づくり、芝生とクッションの設置を完了した。

作業前後の比較は以下の通りである。



コミュニティスペース「もちりす」 完成予想図



- ①黒板：子供が自由楽しく使える
- ②人工芝：ごろごろ寛げる
- ③本棚：好きな時に読める
- ④和室：座布団で寛げる

▶どの世代も寛げる空間を

改修・内装作業は以上のような形で完了できた。また、作業期間中、数回にわたって住民の方々との食事会を開催し、交流を深めることができた点も成果の一つであると考えている。メンバーの創意工夫により、完成予想図に近づけた形で作業を遂行することができた。

2. 振り返りと今後の展望

1) 今年度活動の振り返り

まず、今年度活動における反省点を述べたいと思う。メンバーに遠方者が多く、帰省や新型コロナウイルスの影響で作業の進行が大幅に遅れ、イベント開催に至らなかった点は、進行の方法を反省しなければならないと感じている。今後、計画性をさらに高め、完成したこの「拠点」を活用していきたい。

次に、活動を通しての所感について述べたいと思う。結論から言えば、今年度の活動を通して、活動を応援して下さる住民の方々のニーズは「若い人たちと交流したい」というもので、その世代は私たち大学生を含む20代ごろの層であるということに確信が持てた。理由は大きく2点であり、1点目に、実際に口に出して仰る方が多かった点、2点目に、私たち以外の若い世代（子供世代および親子世帯）が用瀬にはほぼおらず、また私たち自身も繋がりがある層ではないという点である。2点目の理由から、地域活性化に貢献する入り口としてそれらの世代層をターゲットにイベントを展開することは効率的でないと考え、地域で活動したい大学生と、若い世代と交流を図りたい住民とのマッチングを図れるようなイベントができれば、両者ともに楽しめるのではないかと考えた。これらのことがあり、当初の計画書に記載していた『もちりすのもちうり（「若者と交流できる場所が増えてほしい」という住民ニーズに応えるため、地域内の憩いの場（コミュニティスペース）として展開する。また、地域の方や学生が好きなものを持ち寄って自由に販売できる“道の駅”のような販売所として活用する。）』を実現

したいという思いが強まった次第である。

2) 今後の展望

年度切り替えの間に、カーテンや電飾などの最終の飾りと、奥の部屋の清掃を完了させ、住民の方々とボランティア参加してくださった学生に向けた完成イベントを開催し、「コミュニティスペース もちりす」の完成を祝いたいと考えている。それ以降は、上記のような販売拠点など自由に使える「場所」として定期的に部屋を開き、憩いの場として展開していきたい。また、大学生を呼び込むためのイベント（小規模な食事会など）を開催し、自分たちの卒業後にも地域にとって居心地の良い場所があり続けられるような対策を取りたいと考えている。

以上。